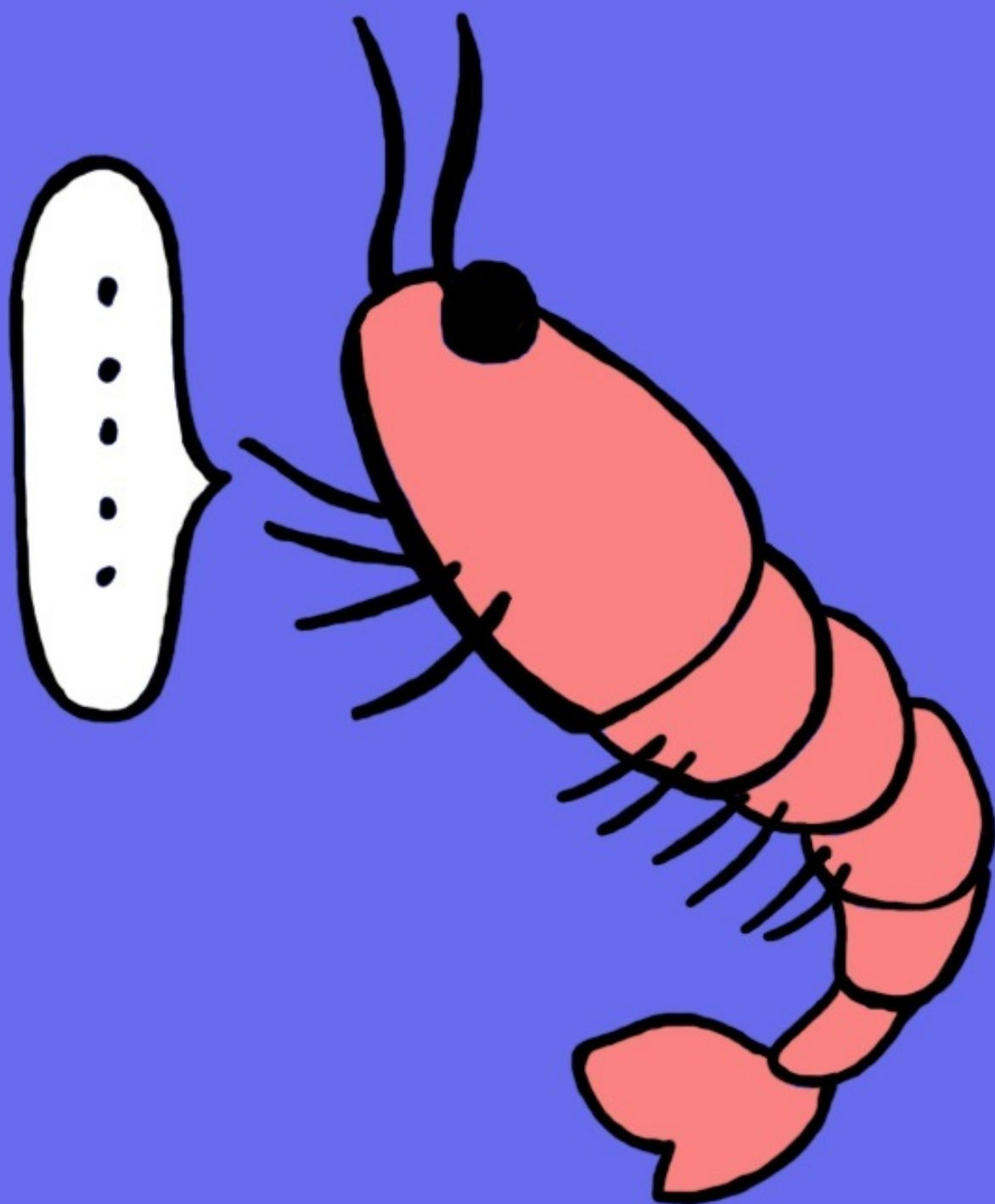


エビツとうまい

とはどういうことか？



エビっとうまい、とはどういうことか？

暇にしているとき、というのは変なことを思いついたりするものだ。しかしそれが思わぬ展開になったりして面白い。

あれは確か、趣味でやっていたバスケの練習に行く途中のことだったと思う。私はバスに乗っていた。遅刻しそうだったけれど、バスの中ではジタバタしても仕方がない。それで、ぼんやりと外を見ていたのだった。

そうして、ふ、とその看板に気付いた。それはハンバーガーのお店で、エビバーガーかなんだっただか、とにかくエビを挟んだハンバーガーの看板だった。ちょうどその頃に売り始めたらしい。大々的に、おいしそうに、キャッチコピーをつけて掲示されている。それが私の目を引いたのは、別に私がエビが好きだからというわけではない。むしろエビはどちらかというと好きではない。特に、仮にそれが遺体だとはいえ、料理されたエビがそのままの姿で目の前に出され、その体や足をむいて食べるというのはなんだか野蛮だし、というのは別に言いのだけれど、面倒だし、なんだか少しかわいそうである。その上エビには申し訳ないのだけれど、エビの味が特別好きということもない。

少し話がそれてしまった。とにかく私の目を引いたのは、エビそのものではなくて、そのキャッチコピーだった。

エビっとうまい！

そこにはそう書かれていたのだ。

ピリッと辛い、とかオオッと叫ぶとかいうのなら意味は分かるのだが、エビっとうまい、と言われてもよく分からない。そこで、暇だった私は、とりあえず、これはどういうことなのかと考えてみたのだった。

そもそも文章からして「エビッと」というのは「サクッと」とか「オオッと」とかいうのと同じ位置づけにあると思う。で、この位置づけにあるのは2タイプあって、「サクッと、ピリッと、ドドッと」というような擬音的なものと、「オオッと叫ぶ、グオッと起きあがる」というような擬声的なものがある。この中で捜すと、擬音的なものの中に「ビビッと（電気が走ったように...）」というのと、擬声的なものの中に「エエッと（驚く）」というのがあることに思い至った。そして結論が出た。

すなわち、「エビッと、」というの「エエッと、」と「ビビッと、」の混合形ではないかということである。つまり、文法的には擬声的形容と擬音的形容の混合形というわけである。し

たがって、そのエビを使ったハンバーガーは、「エエッと驚いた瞬間にビビッと電気が走るくらいまい、」ということなのではないかという結論を得たのであった。

そんなことを考えていると、バスがついたので、私は降りた。なかなか面白い結論が出たけれど、実際にそんな味なのかどうかは分からない。この結論を証明するためにも一度食べてみるべきかもしれない、と思いつつ、食べないまま現在に至っているのである。